

くすりのしおり

内服剤

2022年12月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：カバサール錠 1.0mg [乳汁漏出症など]

主成分：カベルゴリン (Cabergoline)

剤形：白色の割線入りの錠剤、長径 7.4mm、短径 3.8mm、厚さ 2.8mm

シート記載など：CABASER 1.0mg、カバサール 1mg、社マーク、Pfizer、カバサール 1.0mg、カベルゴリン、701



この薬の作用と効果について

ドパミン D₂ 受容体を刺激し、乳汁分泌などに係わるプロラクチンというホルモンの過剰分泌を抑えます。通常、乳汁分泌の抑制、プロラクチンの過剰分泌が原因の排卵障害の治療、プロラクチンの過剰分泌が原因の下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合のみ）の治療、産褥性乳汁分泌の抑制に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。心臓弁尖肥厚、心臓弁可動制限およびこれらに伴う狭窄などの心臓弁膜の病変またはその既往歴がある。妊娠中毒症、産褥期高血圧がある。胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心嚢液貯留、後腹膜線維症またはその既往歴がある。消化性潰瘍や消化管出血またはその既往歴がある。レイノー病がある。精神病またはその既往歴、低血圧症、心血管障害またはその既往歴がある。下垂体腫瘍が進展し視力障害などがある。肝機能障害またはその既往歴がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置を必要としない場合に限る）：通常、成人は1週間に1回（同一曜日）就寝前に服用します。1回量を主成分として0.25mgから服用を始め、臨床症状を観察しながら、少なくとも2週間以上の間隔で1回量を0.25mgずつ増やし、維持量（標準1回量0.25～0.75mg）が定められます。年齢・症状により適宜増減されますが、1回量の上限は1.0mgです。
産褥性乳汁分泌抑制：通常、成人は主成分として1.0mgを胎児娩出後に1回のみ食後に服用します。本剤は1錠中に主成分1.0mgを含有します。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・この薬を使用する前に、トルコ鞍（あん）（下垂体腺腫の有無）の検査が行われます。（乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害の場合）
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次週に飲むときは飲み忘れて飲んだ日と同じ曜日に飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。（乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫の場合）
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。吐き気、嘔吐、胃部不快感、幻覚（実際には存在しないものを存在するかのよう感じる）、妄想（根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない）、頭重感、めまい、起立性低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う）があらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに受診してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・急に眠くなったり、血圧の低下により立ちくらみなどを起こすことがありますので、車の運転、機械の操作、高いところでの作業などの危険を伴う作業は避けてください。
- ・心臓弁膜症があらわれることがあります。息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加、動悸などの症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。（乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫の場合）
- ・この薬を使用する前に心エコー検査などにより、心臓弁膜症の有無が確認されます。使用開始後、3～6ヵ月以内に、その後も6～12ヵ月ごとに心エコー検査が行われます。また、定期的に聴診などの身体所見、胸部X線、CTなどの検査が行われます。（乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫の場合）
- ・下垂体腫瘍が大きくなった高プロラクチン血性下垂体腺腫の人は、髄液鼻漏があらわれ、髄膜炎に至ることがあります。発熱、頭痛、吐き気、嘔吐などの症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・視野障害のある高プロラクチン血性下垂体腺腫の人は、いったん、視野障害が改善した後、再び視野障害

- があらわれることがあります。異常が認められた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・氷あん法（氷のうなどで乳房を冷やす）などの補助的方法を併用することがあります。（産褥性乳汁分泌抑制の場合）
 - ・妊娠を希望する場合には、妊娠を早期に確認するために定期的に検査を行ってください。
 - ・妊娠を望まない女性の方は避妊をしてください。
 - ・この薬を長期間服用する場合は、定期的に一般的な婦人科の検査が行われます。（乳汁漏出症、高プロラクチン血性排卵障害、高プロラクチン血性下垂体腺腫の場合）

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、頭痛などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・実際には存在しないものを存在するかのように感じる、根拠が無いのにあり得ないことを考えてしまう、気を失う [幻覚、妄想、失神、せん妄、錯乱]
- ・発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]
- ・胸が痛い、むくみ、呼吸困難 [胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心嚢液貯留]
- ・息苦しい・息切れ、むくみ、動悸 [心臓弁膜症]
- ・背部痛、足のむくみ、尿量減少 [後腹膜線維症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。
- ・[ご家族の方へ]患者さんに衝動制御障害（病的な賭博、病的な性欲亢進、過剰で無計画な買い物、暴食などの衝動的な行動を起こすこと）があらわれることがありますので、患者さんの言動に注意していただき、このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。